

町の子どもたちの口腔衛生向上を目指して
— 保小中で連携した系統的な歯科指導体制の確立を通して —

I 設定理由

「平成26年度千葉県学校保健統計調査」によると、未処置歯保有率は、小学生で24.5%、中学生で16.8%と減少傾向にある。全国的にも同様の傾向である。

しかし神崎町の児童生徒の未処置歯保有率は、例年県平均を大きく上回る。一方で歯科健診後の未処置歯治療率は年々上がっており、2014年度（平成26年度）の治療率は、小学校で70.2%であった。治療率が上がっているにもかかわらず、翌年の定期健康診断で未処置歯保有率が県平均を上回ってしまうことが、本町の歯科保健における課題である。

そこで、神崎町における児童生徒の口腔環境と未処置歯の治療状況の経過を分析するとともに、口腔衛生に関する児童生徒及び保護者の意識や、家庭での生活習慣を把握し、幼児期からの系統的な指導を行うことで、効果的な歯科指導ができるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究仮説

- 1 児童生徒の口腔衛生に関する意識や家庭での生活習慣と、保護者の口腔衛生に関する意識を調査し、未処置歯の有無との関連を探ることで、未処置歯保有率が高い要因が明らかになるだろう。
- 2 児童生徒の実態に合わせた効果的な歯科指導や家庭への働きかけを行うことで、未処置歯保有率の低下と治療率向上につながるだろう。

III 研究内容

- 1 未処置歯における歯科健診結果と治療状況の関連を分析
- 2 児童生徒と保護者への、口腔衛生に関する意識と生活習慣に関する実態調査
- 3 児童生徒への歯科指導と、家庭への働きかけの工夫

IV 結論

未処置歯における歯科健診の結果と受診状況の関連を分析することで、「むし歯になる子はなる、ならない子はならない」という傾向があることが明らかになった。また歯科保健実態調査で、児童生徒と保護者の口腔衛生に関する関心の高さが未処置歯の有無に大きく影響することがわかった。

それらを受け、神崎町歯科保健全体計画を作成し、町全体で子どもたちの歯と口の健康の保持増進にとりくむ体制づくりを進めた。歯科指導を工夫した結果、未処置歯保有率や治療率に改善傾向がみられた。また、生活習慣や歯の健康に対する自信に大きな変化がみられた。

しかし、未処置歯保有率は依然として県平均を上回っている。今後も継続的に家庭、地域、学校が連携して、地域の子どもたちの歯と口の健康の保持増進をめざしていく必要がある。

I 研究主題

町の子どもたちの口腔衛生向上を目指して

— 保小中で連携した系統的な歯科指導体制の確立を通して —

II 設定理由

文部科学省の「平成 26 年度全国学校保健統計調査」によると、未処置歯保有率は小学生では 26.3%、中学生では 18.5%で、全国的に減少傾向にある。また、千葉県の児童生徒の未処置歯保有率も減少傾向にあり、「平成 26 年度千葉県学校保健統計調査」によると、小学生で 24.5%、中学生で 16.8%と、全国平均並みであった。

しかし神崎町の児童生徒の未処置歯保有率は、例年県平均を大きく上回る。2014 年度（平成 26 年度）定期健康診断の結果、未処置歯保有率は町内小学校では 49.8%、中学校では 25.9%であった。一方で歯科健診後の未処置歯治療率は、年々上がっており、2014 年度（平成 26 年度）は、小学校で 70.2%、中学校で 40.0%であった。多くの児童生徒が治療を行っているにもかかわらず、翌年の定期健康診断で未処置歯保有率が県平均を上回ってしまうことが、本町の歯科保健における課題である。

この原因として、診療勧告を行っても受診しなかったり、受診後の通院を途中でやめてしまったりしている児童生徒がいること、口腔衛生に関する児童生徒や家庭の意識が低いこと、口腔衛生に関する知識・技術が不足していることの 3 点が予想された。

そこで、神崎町における児童生徒の口腔環境と未処置歯の治療状況の経過を分析するとともに、口腔衛生に関する児童生徒の意識や家庭での生活習慣、保護者の口腔衛生に関する意識を把握し、幼児期からの系統的な指導を行うことで、効果的な歯科指導や家庭への働きかけができるのではないかと考え、本主題を設定した。

III 研究のねらい

- 1 児童生徒の未処置歯における歯科健診結果と治療状況を合わせて分析するとともに、口腔衛生に関する児童生徒の意識や家庭での生活習慣、保護者の口腔衛生に関する意識を調査し、未処置歯保有率が高い原因を探る。
- 2 未処置歯保有率の低下と治療率向上のための歯科指導と家庭への働きかけを工夫する。

IV 研究の仮説

- 1 児童生徒の口腔衛生に関する意識や家庭での生活習慣、保護者の口腔衛生に関する意識を調査し、未処置歯の有無との関連を探ることにより、未処置歯保有率が高い要因が明らかになるだろう。
- 2 児童生徒の実態に合わせた効果的な歯科指導や家庭への働きかけを行うことにより、未処置歯保有率の低下と治療率向上につながるだろう。

V 研究内容

- 1 未処置歯における歯科健診結果と治療状況の関連を分析
- 2 児童生徒と保護者への、口腔衛生に関する意識と生活習慣に関する実態調査
- 3 児童生徒への歯科指導と、家庭への働きかけの工夫

VI 研究経過

| | |
|--------------------|---|
| 2014年度 (平成26年度) | <ul style="list-style-type: none"> ・「平成26年度神崎町学校保健連絡会議」 ・第1回歯科保健実態調査実施 |
| 2015年度 (平成27年度) | <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度歯科健診結果と治療状況、2015年度の歯科健診結果を分析 ・第1回歯科保健実態調査の結果の分析 ・「平成27年度神崎町学校保健連絡会議」 ・神崎町歯科保健全体計画作成 ・歯科指導の方法を検討 ・歯科指導の実施(小学校6年生での小中養護教諭(TT)による歯科指導、小学校4年生での栄養士と小学校養護教諭による歯と食生活に関する栄養指導、保育所年長での小学校養護教諭による歯科指導) |
| 2016年度 (平成28年度) | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健指導の見直し、改善 ・「平成28年度学校保健連絡会議」 ・歯科指導の実施(毎月の歯みがきチェックカードの実施、C、CO、G、GOの児童生徒への個別(少人数)での歯科指導、小学校1年生親子・5年生・中学校1年生での歯科衛生士による歯科指導) ・見直し後の「歯科健康診断結果のお知らせ」の使用開始、治療率向上のためのとりくみ ・第2回歯科保健実態調査実施 |
| 2017年度 (平成29年度) | <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度歯科健診結果の分析 ・「平成29年度学校保健連絡会議」 |

VII 研究の実際

1 仮説1を受けたとりくみ

(1) 未処置歯における歯科健診結果と治療状況の関連を分析

① 未処置歯保有率と治療状況の推移

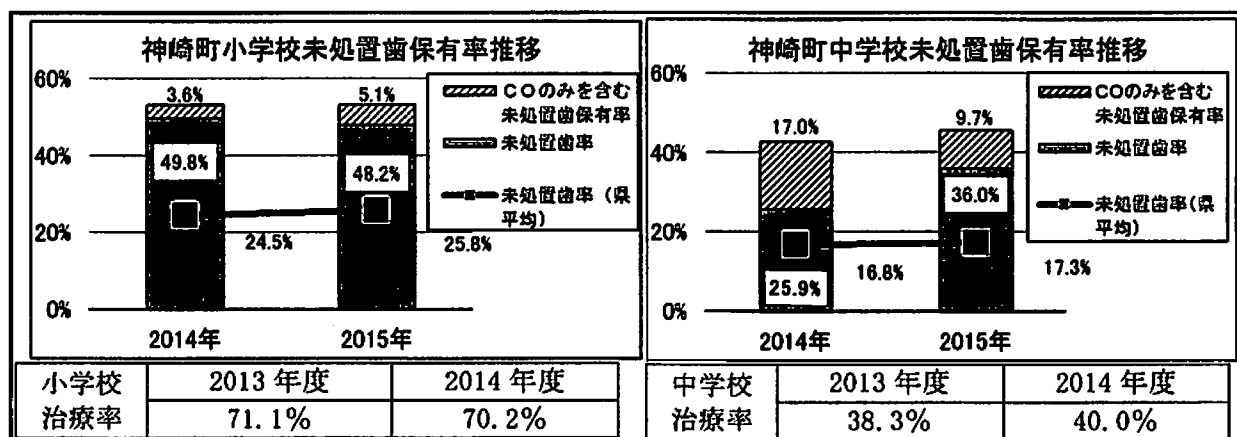


図1 未処置歯保有率(2014年～2015年)と治療率(2013年～2014年)の推移

例年、未処置歯保有率は、小中学校ともに県平均を大きく上回っている。

また、小学校においては、毎年70%以上の児童が未処置歯の治療を行っているにもかかわらず、翌年多くの児童が未処置歯を保有している。(図1)

② 2014年度(平成26年度)・2015年度(平成27年度)の歯科健診の結果と経過
未処置歯の有無と治療状況の関連を調べるため、年度を追って集計した。(表1)

表1 歯科健診結果の経過

| 町内小中学生(386人) | 治療 | 2015年度未処置歯 | 人数(%) | グルーピング(※) |
|------------------|----|------------|-------------|-----------|
| 2014年度 未処置歯あり | × | あり | 52人(13.5%) | A |
| | × | なし | 10人(3.0%) | B |
| | ○ | あり | 66人(17.1%) | C |
| | ○ | なし | 38人(10.0%) | D |
| 2014年度 未処置歯なし | / | あり | 56人(14.5%) | E |
| | / | なし | 164人(42.5%) | F |

- 2年連続未処置歯のある割合 (A+C)・・・30.6%
- どちらか1年未処置歯のある割合 (B+D+E)・・・26.9%
- 2年連続未処置歯の無い割合 (F)・・・42.5%

2015年度未処置歯があった児童生徒(A、C、E)の内訳

- 前年度も未処置歯があった児童生徒の割合 (A+C)・・・71.1%
- 前年度は未処置歯がなかった児童生徒の割合 (E)・・・28.9%

<わかったこと>

- 2年連続未処置歯の無い(F)割合が最も高い。次いで2年連続未処置のある(A+C)割合が高くなっており「むし歯になる子はなる、ならない子はならない」という傾向がみられた。
- 未処置歯の治療を行っているにもかかわらず、翌年未処置歯を保有する児童生徒(C)が多いことから、口腔衛生の管理に課題があることがわかった。

(2) 児童生徒と保護者への、口腔衛生に関する意識と生活習慣に関する実態調査

① 歯科保健実態調査(第1回) 資料1-1、1-2

神崎中学校区の児童生徒及び保護者に対し、口腔衛生に関する意識や生活習慣と未処置歯の有無の関連を探り、指導内容を焦点化するために、アンケート調査を行った。

対 象 神崎中学校区児童生徒(小学校1年生～中学校2年生)・保護者各394人

実施方法 記名による選択式、一部記述式の質問紙調査

実施時期 2014年2月

ア 結果と考察(アンケート結果より) 資料2-1、2-2

アンケート結果について、全体の傾向を把握するとともに、「表1の調査のグルーピング(※)」により、「A(2014年度未処置歯ありで未治療、2015年度未処置歯あり)」「C(2014年度未処置歯ありで治療済み、2015年度未処置歯あり)」「F(2014年度未処置歯なし、2015年度未処置歯なし)」の3観点を比較し考察を行った。

(ア) 児童生徒アンケートの結果

「お菓子の摂取頻度」、「甘い飲み物の摂取頻度」、「歯ブラシの交換頻度」、「歯の健康への自信」について、未処置歯の有無や治療状況との関連性がみられた。

- お菓子の摂取頻度では、「①ほぼ毎日」と回答した割合は、「A」「C」が多かった。「①ほぼ毎日」と「②週に3～4日」を合わせた割合は、「A」68.0%、「C」71.9%、「F」58.6%で、お菓子の摂取頻度が未処置歯の有無に影響していると考えられた。(資料2-1-1)
- 甘い飲み物の摂取頻度では、「①ほぼ毎日」と回答した割合は、「A」「C」が多かった。「A」56.0%、「C」53.2%、「F」41.4%であり、甘い飲み物を摂取する頻度が未処置歯の有無に影響していると考えられた。(資料2-1-2)
- 歯ブラシの交換頻度では、「①2週間に1回」と「②1ヶ月に1回」を合わせた割合は、「A」49.0%、「C」59.0%、「F」56.3%であった。また、3ヶ月以上同じ歯ブラシを使っている割合は「A」32.7%、「C」19.7%、「F」17.1%であった。これにより、受診していない児童生徒は、歯ブラシの交換頻度が低い傾向があると考えられた。(資料2-2-9)
- 歯の健康への自信では、全体の22.5%が「自信あり」、35.6%が「自信なし」という結果であった。「A」は「自信あり」4.1%、「自信なし」71.4%、「C」は「自信あり」12.7%、「自信なし」34.9%、「F」は「自信あり」34.0%、「自信なし」23.3%であった。歯の自信と口腔環境には関係性がみられ、特に「A」からは、受診していない児童生徒は、歯の健康への自信が低いことが考えられた。(資料2-2-10)

(イ) 保護者アンケート

- 家族構成の口腔環境への影響はみられなかった。(資料2-2-1)
- 子どもの口腔内の観察の頻度では、全体で「①週に1回以上」20.8%、「②月に1回以上」25.6%、「③ほとんどない」53.6%であり、全体的に観察頻度が低いことが考えられた。小学校は、「①週に1回以上」の割合が、「A」11.1%、「C」24.6%、「F」36.6%であり、保護者の関心の有無が児童の未処置歯の有無に大きく関わっていることが考えられた。中学生は、ほとんどの家庭で口腔内の観察は行われていなかった。(資料2-2-2)
- 仕上げみがきについても、口腔内の観察と同様、多くの家庭で行われていなかった。(資料2-2-4)

2 仮説2を受けたとりくみ

(1) 児童生徒への歯科指導と、家庭への働きかけの工夫

① 学校保健連絡会議での情報発信

神崎町では教育委員会が事務局となり、小学校2校、中学校1校が合同で学校保健委員会(以下学校保健連絡会議)を毎年1回、夏期に開催している。出席者は、学校医、学校歯科医、教育長、各学校長、各校PTA会長、教育課長、保健福祉課長、保健福祉課技師、保育所長、給食センター栄養教諭、教育委員会、各校養護教諭となっている。主な内容は定期健康診断の結果報告や、児童生徒の健康課題についての協議などであり、2014年度からは、歯科保健に関する内容について、養護教諭からの報告をもとに、意見交換を行っている。

2015年度の学校保健連絡会議では、第1回歯科保健実態調査の結果報告、意見交換を行い、専門家によるブラッシング指導が必要であることが共通理解され、翌2016年度から歯科衛生

士の派遣の体制づくりを、教育委員会を中心に行うことが確認された。また、保育所における歯科指導の情報交換を行った。学校医からは幼児期からの歯科指導の大切さについて意見があげられ、保育所からは、外部講師による歯科指導への協力依頼があり、保小連携の観点からも、保育所年長クラスでの歯科指導の実施にむけて、共通理解が図られた。



② 神崎町歯科保健全体計画の作成 **資料3**

保育所年長クラス、小学校、中学校の10年間を見通した、系統的な歯科指導（保小中連携）を実施するため、神崎町歯科保健全体計画を作成した。発達段階における口腔衛生の課題と、歯科保健実態調査の結果を踏まえ、学年ごとの指導目標、指導内容等を示し、保育所、小学校、中学校で連携して歯科指導を実施できるように考えた。

確保できる時間と予算が限られている中で児童生徒の印象に残る効果的な指導を行うために、外部講師の積極的な採用を検討した。その際、他機関のみではなく、町内養護教諭が他校種への指導に出向く等の工夫をとり入れた。

③ ブラッシング指導を含めた口腔衛生に関する知識・技術の指導

神崎町歯科保健全体計画（資料3）をもとに、「保小中連携」と「外部講師の活用」を重要視した歯科指導を実施した。

ア 小学校（1年生親子、5年生）、中学校（1年生）での歯科衛生士による歯科指導（★1）

歯科保健実態調査の結果から、ブラッシング指導を含めた知識や技術の指導に重点を置くことが必要と考えられたため、歯科衛生士による歯科指導を実施した。

小学校1年生親子



【指導の流れ】

- ・小学生の口の中の特徴について伝える。
- ・染め出しをして、保護者と一緒にみがき残しを確認する。自分で赤い部分が落ちるようにみがいてみる。
- ・保護者が仕上げみがきを行う。歯科衛生士が児童、保護者一人ひとりにアドバイスをを行う。
- ・飲み物に含まれる糖分について説明する。

中学校1年生



【指導の流れ】

- ・中学生の口の中の特徴、歯肉炎について伝える。
- ・染め出しをし、みがき残しを確認する。まず鏡を見ないでみがき、次に鏡を見ながらみがく。歯科衛生士は一人ひとりのみがき方を見て回りアドバイスする。
- ・フロスの使い方を学び、実践する。

イ 小学校(4年生)での栄養教諭と小学校養護教諭による、歯と食生活に関する栄養指導(★2)

資料4

歯科保健実態調査では、お菓子や甘い飲み物の摂取と未処置歯の有無が関係していることが考えられたため、町給食センター栄養教諭と連携し、歯と食生活に関する栄養指導を実施した。



【指導の流れ】

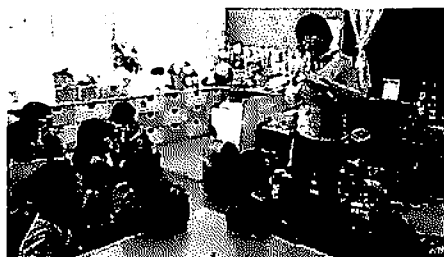
- ・嘔むことの効果について、栄養教諭から話を聞く。
- ・だ液の働きとむし歯予防への効果について、養護教諭が伝える。
- ・おやつとむし歯の関係、歯に良いおやつについて考え、栄養教諭の話聞く。
- ・むし歯との関係を考慮したおやつの取り方について、養護教諭が伝える。

ウ 保育所(年長)での小学校養護教諭による歯科指導(保小連携)(★3) 資料5

エ 小学校(6年生)での小中養護教諭(TT)による歯科指導(小中連携)(★3) 資料6、7

学校保健連絡会議で話し合われた「保小中連携」と「外部講師の効果」を重要視し、小学校養護教諭が保育所で、中学校養護教諭が小学校で歯科指導を実施した。

保育所年長クラス



【指導の流れ】

- ・歯に良い行動と悪い行動について○×クイズを行う。
- ・『むしばくんだいすき?』の絵本の読み聞かせを行う。
- ・歯ブラシの持ち方や基本のみがき方を説明する。
- ・幼児は、養護教諭の歯の模型を手本として、順番に歯をみがく。

小学校6年生



【指導の流れ】

- ・中学校の養護教諭から、中学生ではむし歯に加え歯肉炎にも注意が必要であることを伝える。
- ・歯みがきの仕方について、小学校養護教諭とともにこれまで学んだことを振り返りながら確認する。
- ・自分に合った歯のみがき方を工夫し、発表する。最後に中学校養護教諭からアドバイスを送るとともに、フロスの使い方について学び、実践する。

オ C、CO、G、GOの児童生徒への養護教諭による個別(少人数)での歯科指導(★4)

本町の児童生徒に「むし歯になる子はなる、ならない子はならない」という傾向がみられたため、歯科健診で歯や歯肉に異常のあった児童生徒を対象にした、個別(少人数)での歯科指導を実施した。

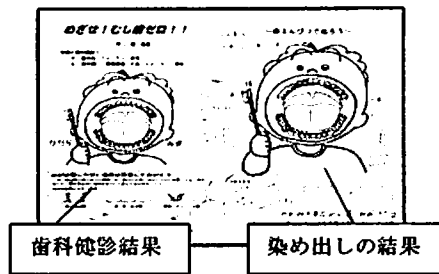


図2 個別指導用ワークシート

【指導の流れ（小学校）】

- ・自分の歯科健診の結果を確認する。
- ・染め出しをし、みがき残しの多い箇所をチェックする。
(図2)
- ・一人ひとり指導を行いながら、自分に合ったみがき方を見つける。



【指導の流れ（中学校）】

- ・自分の歯肉を鏡で観察し、歯肉炎のチェックをする。
- ・染め出しをし、みがき残しの多い箇所をチェックする。
- ・全員で基本のみがき方を確認し、その後各自鏡を見ながら丁寧にみがく。その際、養護教諭が一人ひとり個別にアドバイスをする。
- ・最後に今後の自立に向け、保護者同伴でなくても歯科医院を受診できるように、歯科医院の受診の仕方を確認する。

④ 歯ブラシチェックを含めた歯みがきの習慣化に関する指導 **資料8**

歯科保健実態調査の結果、歯ブラシの交換頻度（歯ブラシの状態）が、口腔衛生への関心と関係していることが考えられた。歯ブラシチェックと歯みがきの習慣化を目指し、「歯みがきチェックカード」を小中統一で作成し、毎月1回1週間の期間を設けて実施した。

教職員からは、「意識付けになっている」「中学生でも歯みがきに関する指導は必要」という意見がでて、学校全体でとりくむ体制ができてきた。

⑤ 保護者への働きかけ **資料9**

小学校では、児童への指導に加え保護者への働きかけが大切と考えた。しかし歯科保健実態調査の結果、保護者による児童の口内の観察が3年生以上で減る傾向があり、仕上げみがきにおいても同様の傾向があった。また、歯科健診の結果を見ると、3、4年生で未処置歯が増える傾向にあった。これらの結果から、児童生徒の口腔環境改善には、保護者の協力が不可欠であると考えた。

神崎町歯科保健全体計画では、小学校1年生へ歯科衛生士による親子での歯科指導をとり入れた。また、2016年度より、家庭（保護者）向け保健だより「ははは通信」を毎月発行し、保護者にむけて児童生徒の口腔環境への関心と責任への意識向上を願いとりくんだ。



神崎町では小学校で指導をしていただいた歯科衛生士が町の乳幼児健診も担当している。小学校での指導後、乳幼児期からの保護者にむけたアプローチの必要性を感じたため、町保健福祉課と連携して、2歳児健診時に、小学校での歯科指導から感じたことや保護者による子どもの口腔衛生管理の必要性を伝える機会をつくり、就学前から保護者の口腔衛生に関する意識の向上につなげることができた。

⑥ 診療報告の工夫

ア「歯科健康診断結果のお知らせ」の見直し **資料 10**

本町の児童生徒の「むし歯になる子はなる、ならない子はない」という傾向の原因の一つに、未処置歯の治療を途中でやめてしまうことが予想された。児童生徒個々の診療状況を正確に把握するため、「歯科健康診断結果のお知らせ」の受診結果報告書の受診結果を「むし歯、要観察歯」と「その他（要注意乳歯・歯列咬合等）」に分けて記入するようし、「治療中」をとり除いた。その結果、2016年度末までに未処置歯の治療終了した児童生徒は、小学校で64.9%、中学校で65.0%であった。（表2）

また、以前は、未処置歯のあった児童生徒の受診結果報告書に「むし歯はありませんでした」と記入されたものが多くみられたため、受診結果の欄に「治療の必要なし」の項目を加えた。2016年度は、小学校で22.8%、中学校で30.0%が治療の必要なしであった。（表2）これにより、治療の必要が無い未処置歯も多くあることがわかり、このような児童生徒は、ブラッシングを丁寧に行うことで口腔環境の改善が期待されると考えられた。

表2 2016年度受診結果

| 2016年度未処置歯あり | 治療終了 | 割合 (%) | 治療の必要なし | 割合 (%) |
|--------------|------|--------|---------|--------|
| 小学校 | 74人 | 64.9% | 26人 | 22.8% |
| 中学校 | 39人 | 65.0% | 18人 | 30.0% |

3 歯科指導や家庭への働きかけによる効果の検証

(1) 歯科保健実態調査（第2回）

2015年度、2016年度の歯科指導や家庭への働きかけを受けて、どのような意識や生活習慣の変容が見られたか探るため、再度歯科に関するアンケート調査を行った。

対象 神崎中学校区児童生徒（小学校1年生～中学校2年生）・保護者各349人

実施方法 記名による選択式、一部記述式の質問紙調査

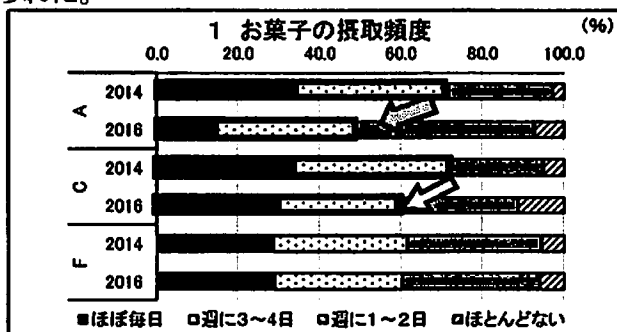
実施時期 2016年2月

① 結果と考察（アンケート結果より） **資料 2-3、2-4**

全体の傾向を把握し、2014年度と2016年度の結果を比較するとともに、指導の効果や影響を確かめるため、2014年度の小学校1～6年生と2016年度の小学校3年生～中学校2年生を比較し考察（追跡調査）した。

ア 児童生徒アンケート

「お菓子の摂取頻度」、「甘い飲み物の摂取頻度」、「歯の健康への自信」について変化がみられた。



○お菓子の摂取頻度では、「A」は71.4%から48.1%、「C」は71.2%から58.5%となり、減少傾向がみられた。（図3）その他の観点でも同様の傾向がみられ、全体的に改善していると考えられる。

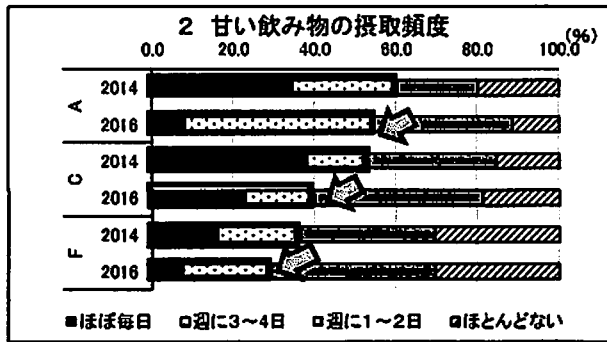


図4 甘い飲み物の摂取頻度の変化

○甘い飲み物の摂取頻度では、どの観点も甘い飲み物の摂取頻度に減少傾向がみられた。(図4)

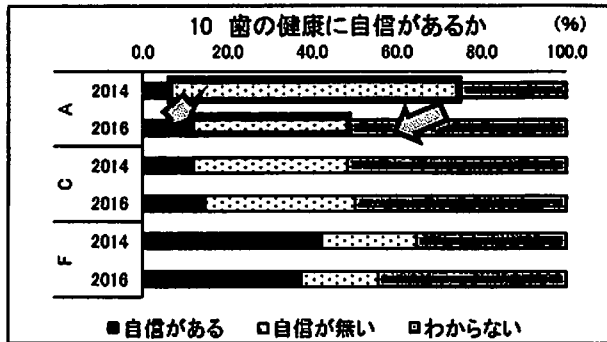


図5 歯の健康への自信の変化

○歯の健康への自信では、「A」は「①自信あり」が5.7%から11.1%に増加し、「②自信なし」が68.6%から37.0%に減少した。その他の観点でも同様の結果がみられた。受診していない児童生徒は、歯の健康に自信がない傾向があったが、歯科指導を行うことで自分の口腔衛生への関心や自信をつけられることが考えられる。(図5)

B 保護者アンケート

どの項目においてもほとんど変化が見られなかった。(資料2-4)しかし、未処置歯の治療率が増加している(図6)ことから、口腔衛生への関心や歯科医院受診への意識が高くなってきていることが考えられる。

② 未処置歯保有率と治療状況の推移

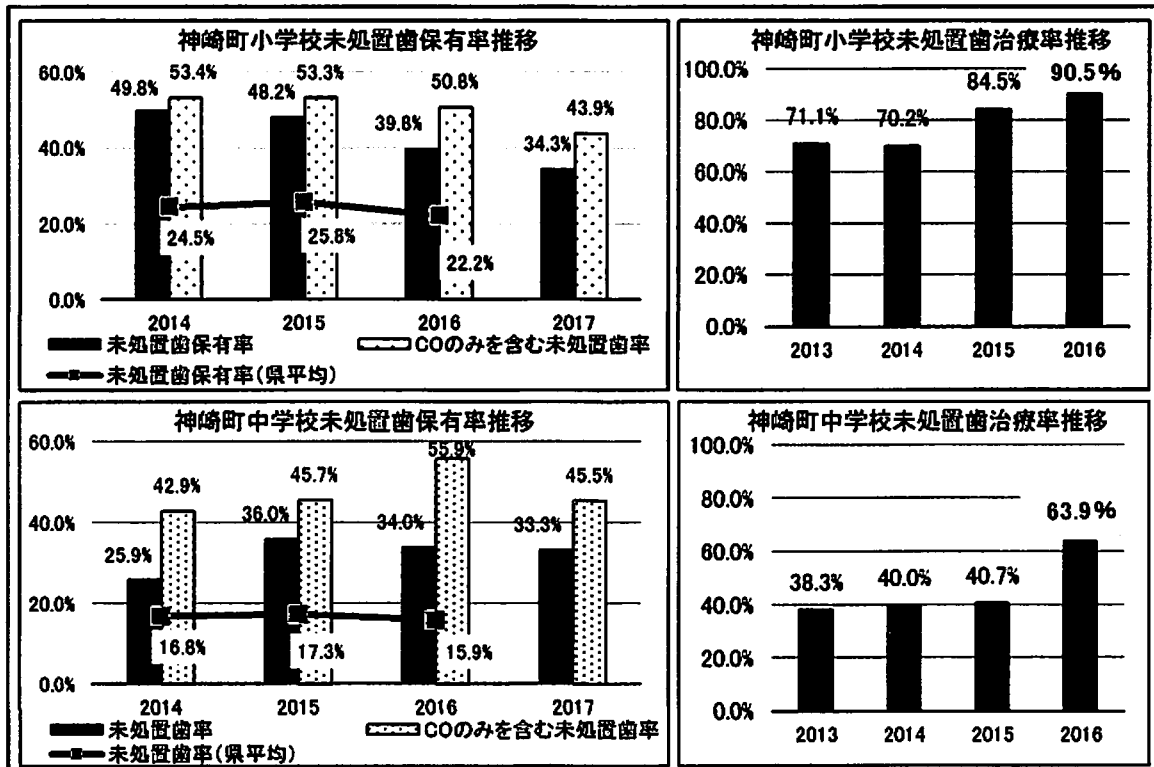


図6 未処置歯保有率(2014年度~2017年度)と治療状況(2013年度~2016年度)の推移

- 未処置歯保有率は、年々減少傾向にある。特に小学校においては、とりくみを始める前の2014年度と比較して今年度の未処置歯保有率が15%近く減少している。(図6)
- 県平均と比較すると未処置歯保有率は依然として高く、また、C Oのみを指摘された児童生徒を含めると、半数近くになる。(図6)
- 未処置歯治療率については改善傾向にあり、2016年度には小学校で90%を超え、中学校では前年度よりも20%以上改善された。(図6)

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- 未処置歯における歯科健診の結果と受診状況の関連を、年度を追って分析することで、「むし歯になる子はなる、ならない子はならない」という傾向があることを明らかにできた。
- 歯科保健実態調査や歯科健診と治療状況の分析結果を、町の学校保健連絡会議で周知し意見交換を行うことで、各学校への歯科衛生士の派遣や、保育所での歯科指導を実施できた。また、歯科衛生士が町の乳幼児健診も担当していることから、小学校での指導を町の乳幼児健診にも生かすことができ、町全体で子どもたちの歯と口の健康の保持増進にとりくむ体制づくりを進めることができた。
- 歯科保健実態調査で、児童生徒の口腔衛生に関する意識や生活習慣、口腔衛生に関する保護者の意識を明らかにできた。歯科指導の重点を明らかにすることで、神崎町歯科保健全体計画に反映することができた。
- 神崎町歯科保健全体計画をもとに歯科指導を行った結果、児童生徒のお菓子や甘い飲み物の摂取頻度に改善傾向がみられた。また、「歯の健康に自信がない」児童生徒が大幅に減少し、受診していない児童生徒の変化が顕著であった。歯科指導を工夫して行うことで、児童生徒の口腔衛生への関心や自信の向上につなげられることができた。
- 未処置歯保有率や治療率は、とりくみを行うことで大幅に改善した。

2 課題

- 歯ブラシの交換頻度などの生活習慣や保護者の意識に大きな変化がみられなかったため、引き続き指導を行っていく必要がある。
- 本町の児童生徒の未処置歯保有率は依然として県平均を上回っている。今後も継続的に、家庭、地域、学校が連携して、地域の子どもの歯と口の健康の保持増進をめざしていく必要がある。

【参考文献】

- ・「平成 22 年度 1 歳 6 か月児及び 3 歳児歯科保健アンケート 千葉県児童生徒歯科保健実態調査」2011年3月 千葉県健康福祉部
- ・七尾純・今井弓子(1984) 『むしばくんだいすき?』あかね書房

歯に関するアンケート（児童生徒用）

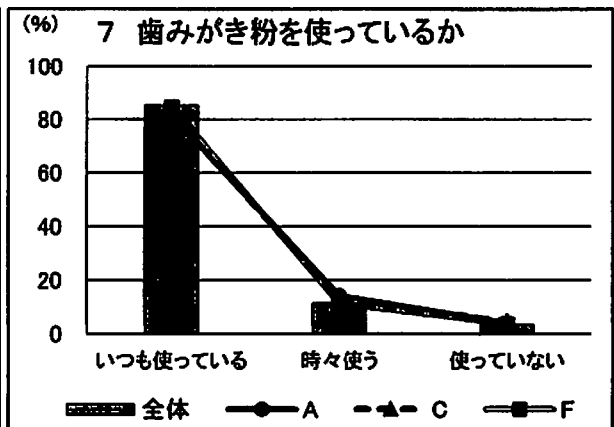
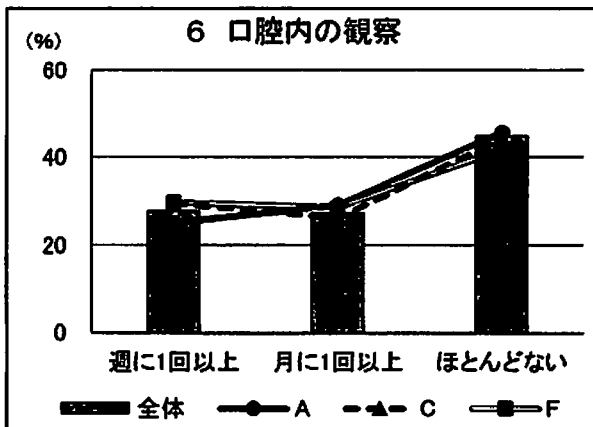
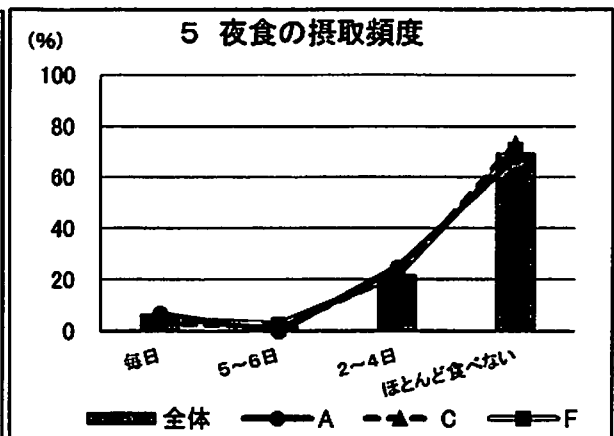
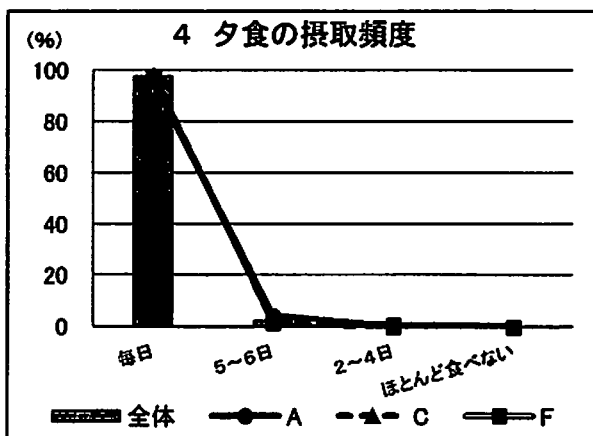
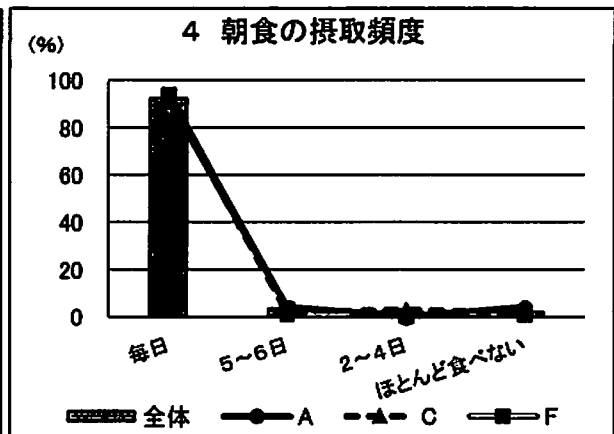
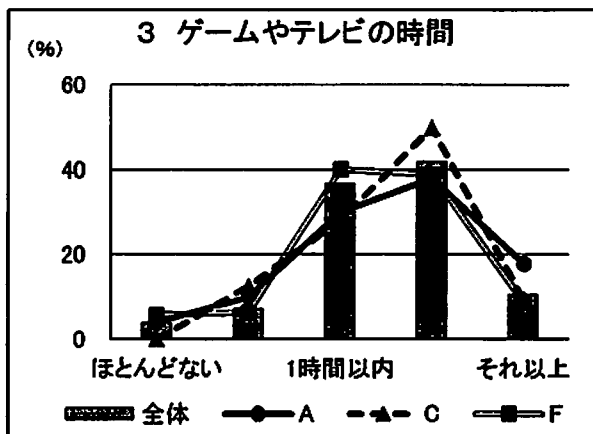
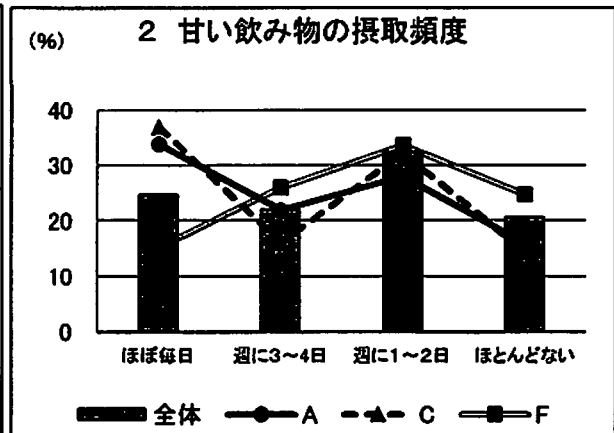
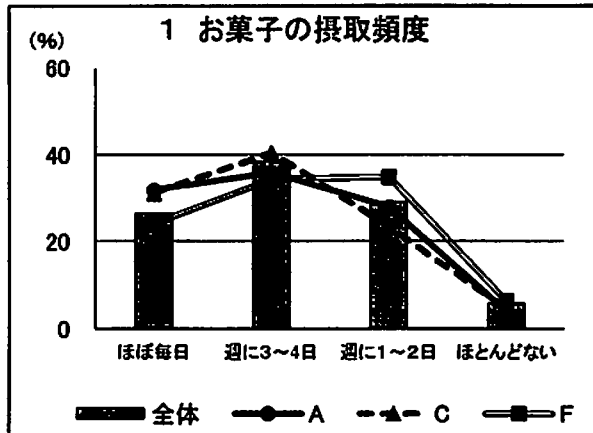
神崎町教育研究会 生活改善研究部 給食・保健班

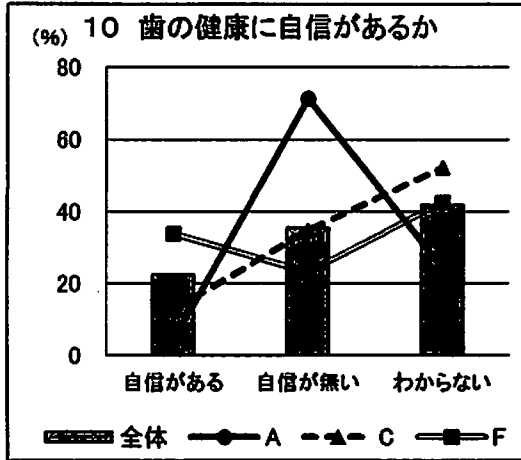
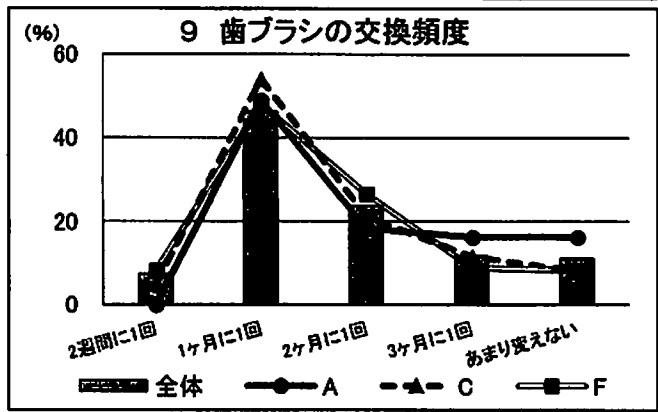
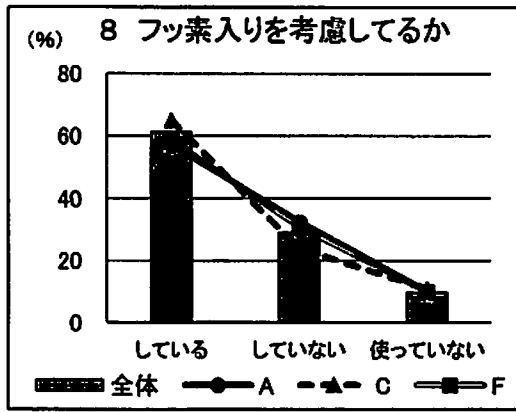
この調査は、日常の生活習慣をお聞きすることにより、今後の歯や口の健康づくりの参考とさせていただくために行います。アンケートの結果は、調査目的以外には使用しません。当てはまると思うものに○をしてください。

年 組 名 前

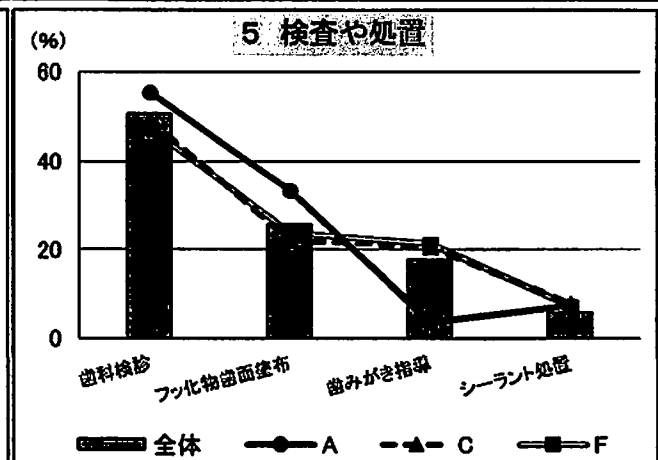
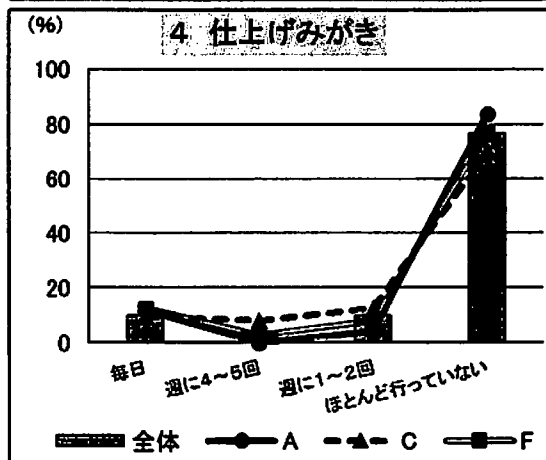
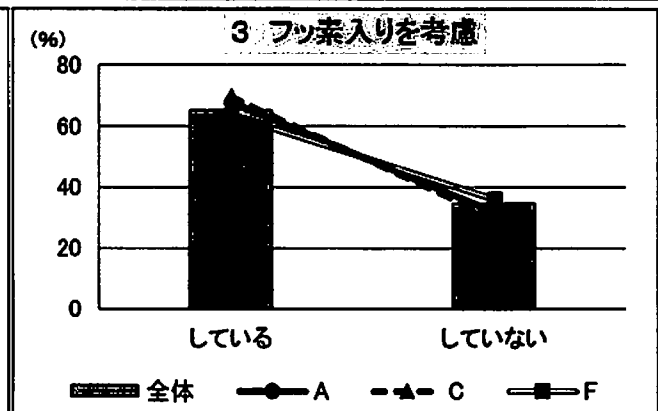
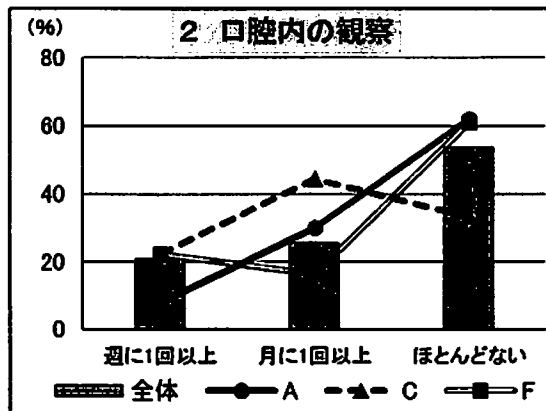
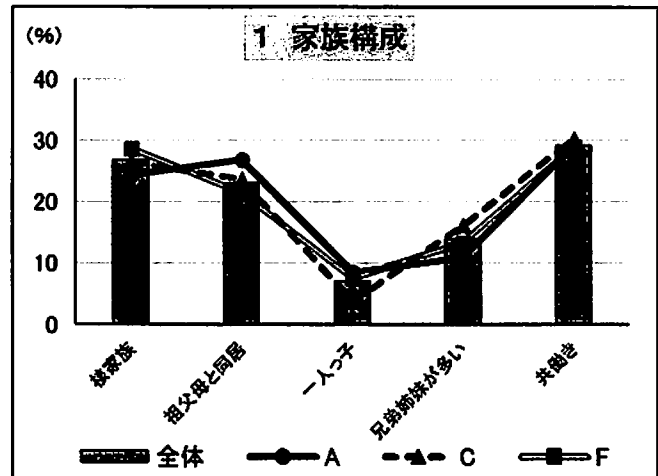
1. あめ・チョコ・ポテトチップスなど、おかしを1週間のうち何日くらい食べますか。
① ほぼ毎日 ② 週に3～4日 ③ 週に1～2日 ④ ほとんどない
2. ジュースや炭酸飲料・スポーツドリンクなど、甘いのみ物を1週間のうち何日くらいのみますか。
① ほぼ毎日 ② 週に3～4日 ③ 週に1～2日 ④ ほとんどない
3. 1日のゲームやテレビの時間はどれくらいですか。
① ほとんどない ② 30分以内 ③ 1時間以内 ④ 3時間以内 ⑤ それ以上
4. 食事について、どのくらい食べていますか。
朝ご飯 ① 毎日 ② 5～6日 ③ 2～4日 ④ ほとんど食べない
夜ご飯 ① 毎日 ② 5～6日 ③ 2～4日 ④ ほとんど食べない
夜食 ※夕食の後に食べるもの ① 毎日 ② 5～6日 ③ 2～4日 ④ ほとんど食べない
5. 自分の口の中（歯や歯ぐきの様子）を観察することがありますか。
① 週に1回以上している ② 月に1回以上している ③ ほとんどない
6. 自分で歯みがきをしていますか。（○はいくつでも）
毎日している ① 朝起きたとき ② 朝食後 ③ 昼食後 ④ 夕食後 ⑤ おやつの後
⑥ 夜寝る前 ⑦ その他 ⑧ 時々している ⑨ あまりしていない
7. あなたははみがき粉を使っていますか。
① いつも使っている ② 時々使う ③ 使っていない
8. はみがき粉を選ぶときに、フッ素入りを選ぶようにしていますか。
① している ② していない ③ 使っていない
9. 歯ブラシは、どのくらいの頻度で交換していますか。
① 2週間に1回 ② 1ヶ月に1回 ③ 2ヶ月に1回 ④ 3ヶ月に1回 ⑤ あまり変えない
10. 歯の健康に自信がありますか
① 自信がある ② 自信がない ③ わからない
11. 歯や口の健康について、気になることや悩みはありますか。（自由に書いてください）

児童生徒アンケート

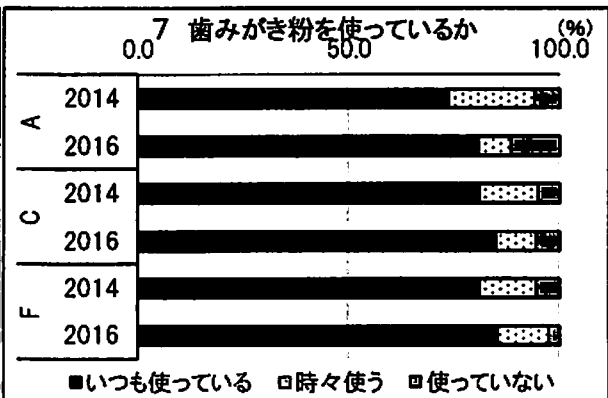
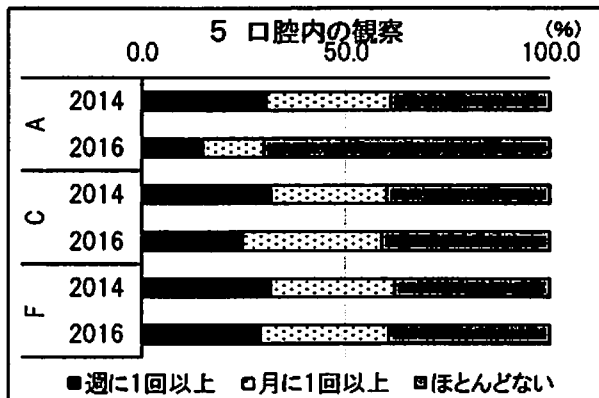
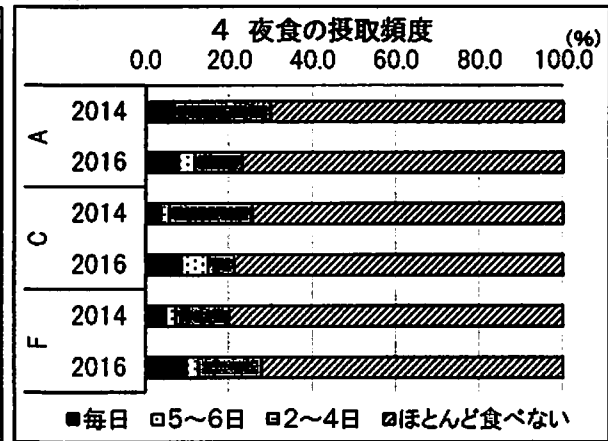
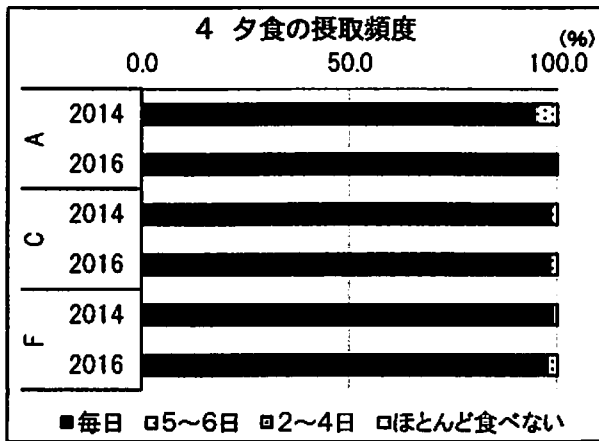
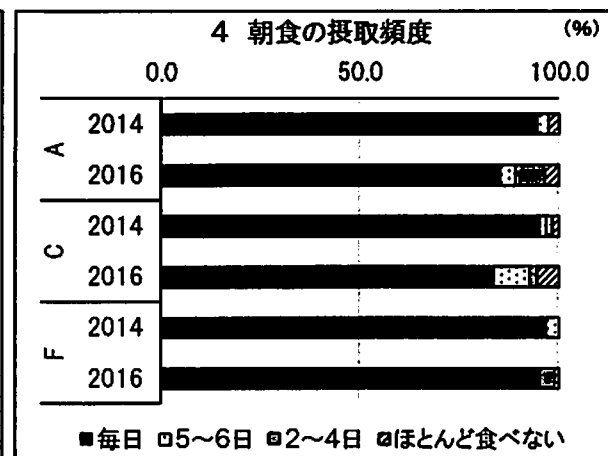
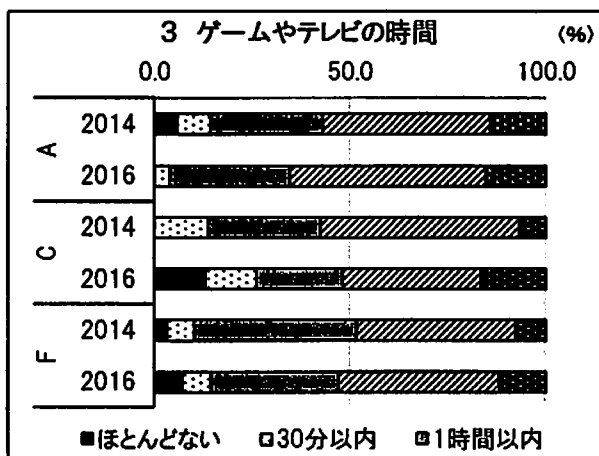
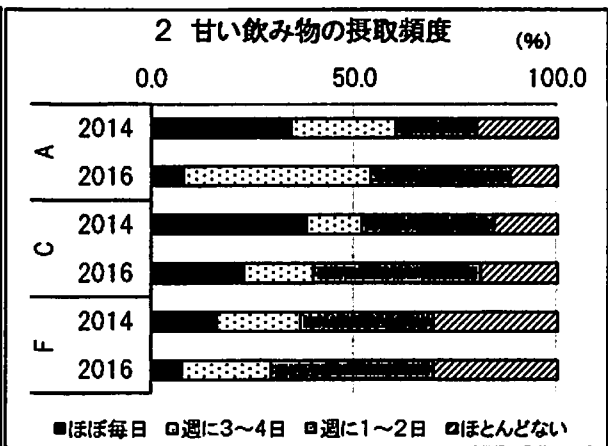
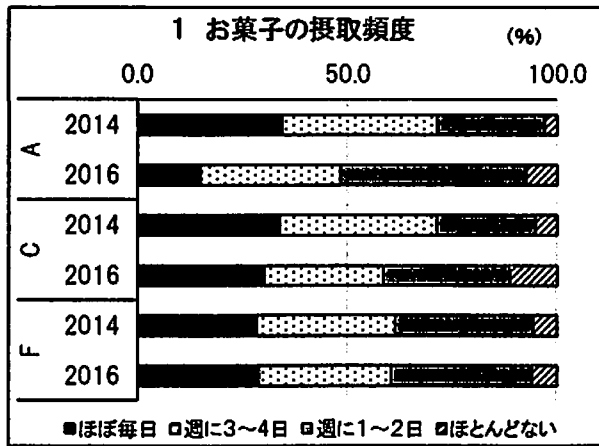


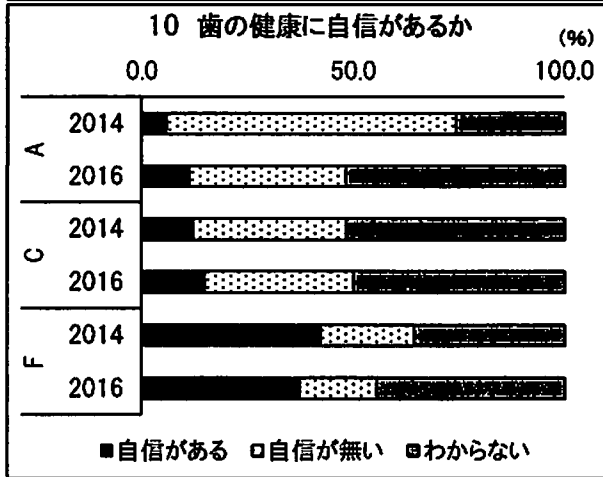
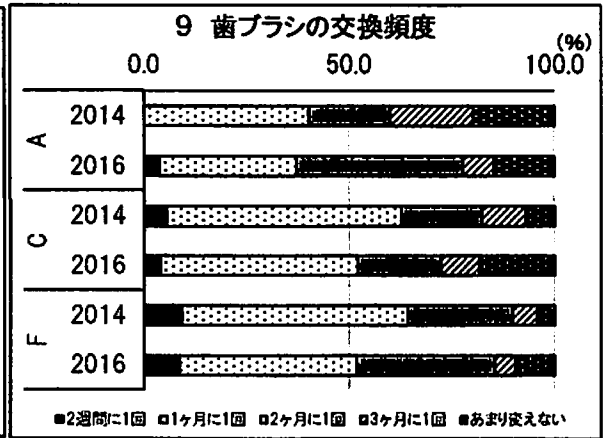
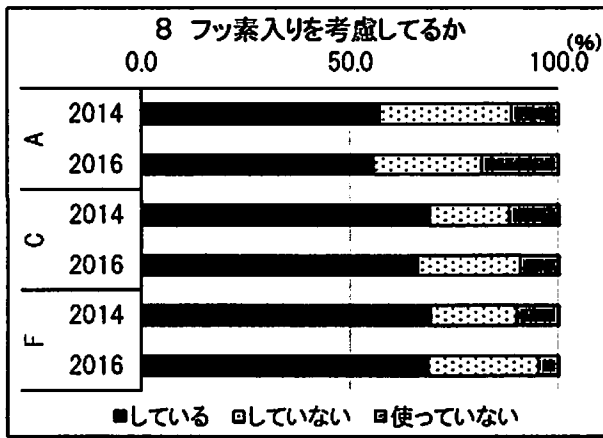


保護者アンケート

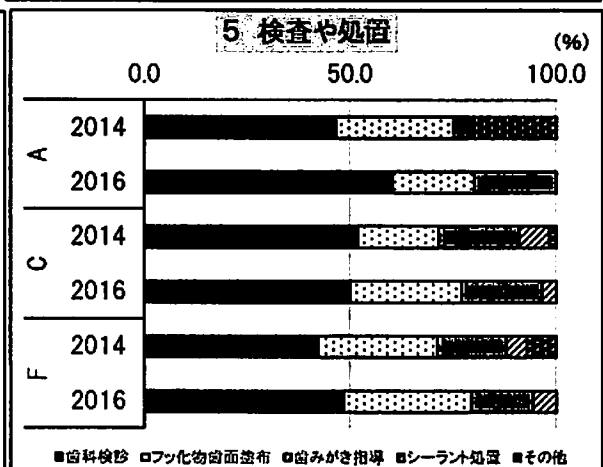
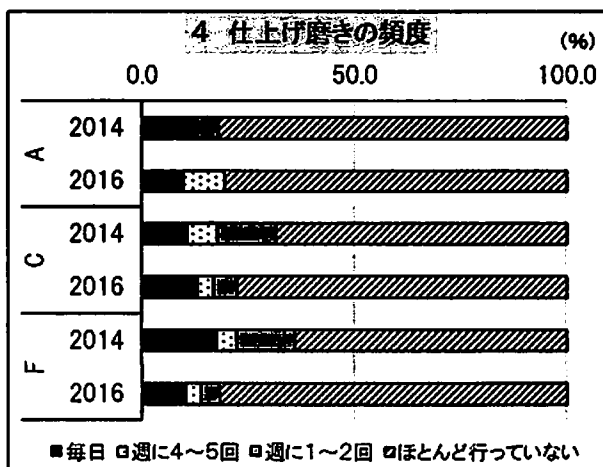
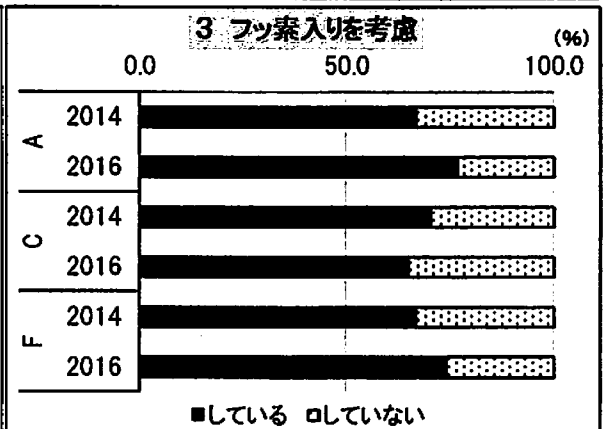
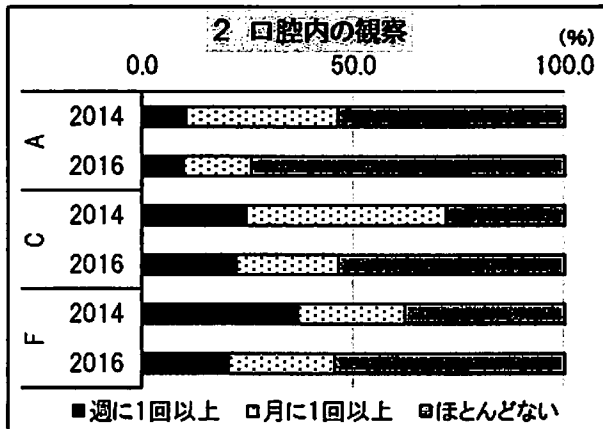
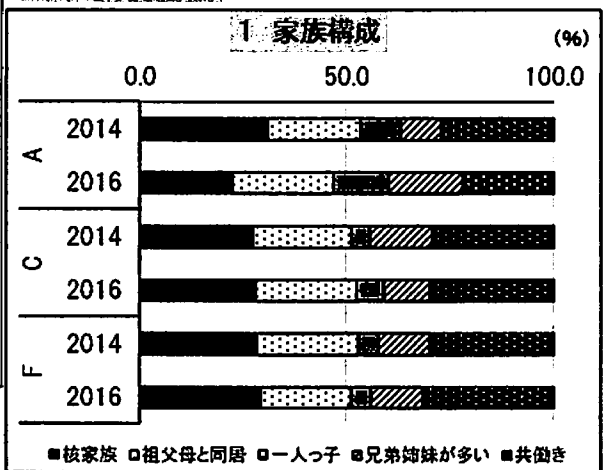


児童生徒アンケート





保護者アンケート



神崎町 歯科保健全体計画

神教研 生活改善部給食・保健班

| | | 歯と口の発育と特徴 | 学年 | 指導者 | 目標 | 歯や歯肉の知識と観察 | その他 家庭との連携 |
|------------|---|---|--------------|---|--|--|--|
| 保育所 | | <ul style="list-style-type: none"> ・乳歯がむし歯になりやすい ・第一大臼歯が生え始める | 年長 (★3) | 養護教諭 (小学校) | 一人でもはみがきができるようになろう ～基本のみがき方でみがいてみよう～ | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の歯や口を観察してみる ・歯ブラシの持ち方や基本のみがき方を身につける ・染め出し(基本のみがきかたを中心に) | <ul style="list-style-type: none"> ・定期健診のすすめ ・仕上げ磨きのすすめ ・むし歯の早期発見と治療 |
| 小学校 | 低学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・上下の歯がはえかわる ・第一大臼歯がむし歯になりやすい | 1年生 (★1) | 歯科衛生士 (親子家庭教育学級) | 一人でもはみがきができるようになろう ～前歯の外側をきれいにみがいてみよう～ | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の歯や口を観察する習慣をつける ・食後の歯みがきを習慣づける ・染め出し(1年:前歯のみがき方を中心に) | <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯の早期発見と早期治療 ・定期健診のすすめ ・仕上げみがきのすすめ ・基本的な生活習慣の確立 ・食後の歯みがき |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・第一大臼歯上下左右4本が噛み合い、咬合が安定する | 2年生 | 養護教諭 (自校) | 一人でもはみがきができるようになろう ～第一大臼歯をきれいにみがこう～ | <ul style="list-style-type: none"> ・染め出し(2年:第一大臼歯のみがき方を中心に) <第一大臼歯> 位置と役割の確認 むし歯にやりやすい理由 | |
| | 中学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・乳臼歯が抜けて、第一小臼歯、第二小臼歯が生えてくる ・上顎の切歯が生えそろうてくる | 3年生 | 養護教諭 (自校) | 丁寧に歯をみがこう ～前歯の内側をきれいにみがこう～ | <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯のでき方(原因と進み方)を知る ・生えかわりの時期のみがきにくい箇所(むし歯のできやすい)箇所を知り、歯みがきの仕方を工夫する ・噛むことの大切さを知る ・染め出し(3年:前歯の内側のみがき方を中心に) | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での定期的な口の点検 ・食後の歯磨きの習慣化 ・むし歯の早期発見と早期治療 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・上の前歯の間(隣接面)にむし歯が発生しやすい ・不正咬合や歯肉炎が現れ始める | 4年生 (★2) | 栄養教諭 (教諭) 養護教諭 (自校) | 丁寧に歯をみがこう ～小臼歯をきれいにみがこう～ | <ul style="list-style-type: none"> ・染め出し(4年:小臼歯のみがき方を中心に) <食事や生活週間との関係> 噛むことの大切さ むし歯になりやすいおやつ おかしの選び方 | |
| | 高学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・第二大臼歯が生え始める ・犬歯が生え、歯が生えそろう ・歯肉炎の児童が増え始める | 5年生 (★1) | 歯科衛生士 | 歯みがきで歯と口を健康にしよう ～歯肉炎について知ろう～ | <ul style="list-style-type: none"> ・歯肉炎(原因と進み方)を知る ・歯肉を観察する習慣をつける ・自分にあったみがき方を理解し実践してみる ・染め出し(5年:第一・第二大臼歯のみがき方を中心に) | <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯の早期発見と早期治療 ・歯肉炎の早期発見と早期治療 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・不正咬合がはっきりしてくる ・第二大臼歯は生え始めからむし歯になりやすい | 6年生 (★3) | 養護教諭 (小学校・中学校) | 歯みがきで歯と口を健康にしよう ～全ての歯をきれいにみがき、歯肉炎を予防しよう～ | <ul style="list-style-type: none"> ・染め出し(6年:全ての歯をきれいにみがけるように) <フロス> フロスの役割と使い方 | |
| 中学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯肉炎になりやすい | 1年生 (★1) | 歯科衛生士 | 歯みがきで歯と口の健康を維持しよう ～自分にあったみがき方を身につけ、歯肉炎を予防・改善しよう～ | <ul style="list-style-type: none"> ・歯肉炎の予防方法を理解し実践する ・歯や口の健康的な生活週間づくりを確立する ・染め出し(自分にあったみがき方で、みがき残しのないブラッシングを行う) | <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯の早期発見と早期治療 ・歯肉炎の早期発見と早期治療 | |
| 小学校 中学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・C、CO、G、GOがある | 所見のある児童生徒(少人数グループ)(★4) | 養護教諭 (自校) | 歯みがきで歯と口を健康にしよう ～自分の歯と口の問題を知ろう～ | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科健診の結果から、自分の歯と口の問題を理解する。 ・染め出し(みがき残しの多い箇所を確認し、丁寧にみがく) | <ul style="list-style-type: none"> ・受診の促進 | |

第4学年栄養指導 指導案

指導者 T1 小学校養護教諭
T2 栄養教諭

1 題材 「歯に良い食生活を考えよう」

2 本時の指導

(1) ねらい

- ・よく噛むと唾液がたくさん分泌され、むし歯を予防することにつながることを理解する。
- ・おやつとり方の問題点に気づくことができる。
- ・適切な食生活を送り、歯を大切にしていこうという意欲をもつことができる。

(2) 展開

| | 時配 | 学習内容と児童の活動 | 教師の支援・指導上の留意点 | 資料 |
|-----|-----|---|--|-----------------|
| 導入 | 8分 | 1 かみかみ昆布を食べて、噛むことによる口の中の変化を発表する。 ・噛んでいると唾液がたくさん出てきた。 ・味が変わってきた。 ・たくさん噛もうと思うと、意識しないといけない。 | ○昆布の変化、口の中の様子、顎の動きについて、噛み始めと30回噛んだときを比べ、変化を実感する。(T1) | かみかみ昆布 |
| 展開1 | 7分 | 2 噛む事の効果を栄養士から聞く。 | ○噛めば噛むほど、唾液がでることを説明する。(T2) | イラスト |
| | 5分 | 3 唾液の歯への効果を理解する。 ・歯の働きについて ・むし歯はどうしてできるか ・ミュータンス菌について ・唾液がミュータンス菌によって掘られた穴を治す。 | ○よく噛んだ際にでる唾液がむし歯予防につながることを理解する。(T1) | パワーポイント |
| 展開2 | 15分 | 4 歯に良いおやつについて栄養士から聞く。 | ○自分で今後歯に良いおやつを選択できるようにする。(T2) | ワークシート |
| | 5分 | 5 おやつとむし歯の関係を理解する。 ・食べる回数を少なくする。 ・食べたら歯をみがく。 ・時間がなければグチュグチュウがいをする。 | ○むし歯になりやすい口の中の様子について伝え、食べる回数を短くする工夫を考えさせる。(T1) | イラスト パワーポイント |
| まとめ | 5分 | むし歯を予防するためには、よくかみ、おやつの食べ方を工夫することも大切である。 | | ワークシート |
| | | 6 学習を振り返り、ワークシートに記入し、発表する。 | ○学習の内容が理解できたかを確認する。(T1) | |

保育所歯科指導 指導案

指導者 T1 小学校養護教諭

T2 保育所担任

1 題材 「歯みがき上手になろう」

2 本時の指導

(1) ねらい

- ・むし歯予防のために丁寧に歯みがきをしようとする。
- ・むし歯ができないようにするにはどうすればよいか考えられる。
- ・歯みがきの基本動作を身に付け、汚れを効果的に落とすみがき方を身に付ける。

(2) 展開

| | 時配 | 学習内容と幼児の活動 | 教師の支援・指導上の留意点 | 資料 |
|---|-----|---|---|----------------|
| 導入 | 15分 | 1 歯に良い行動、悪い行動を普段の生活にあてはめ振り返る。 2 どうしてむし歯ができるのか本を見て理解する。 3 学習課題を確認する。 | ○2つの絵(良い行動、悪い行動)が描かれた絵を見せて、○か×か聞く。(T1) ○絵本『むしばくんだいすき?』を読み聞かせる。(T1) | イラスト 絵本 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> じょうずにはみがきができるようになるろう </div> | | | | |
| 展開 | 10分 | 4 歯の上手な磨き方を理解する。 | ○歯ブラシの握り方や動かし方(軽い力で小さく)を説明する。(T1) ○前歯の磨き方、奥歯の磨き方の確認をする。(T1) | 顎模型 イラスト |
| | 15分 | 5 ブラッシングを行う。 | ○手本を示しながら、一緒に磨く。(T1) ○歯ブラシのあて方、動かし方などを一人ひとりに声かけする。(T2) | 顎模型 |
| まとめ | 5分 | 6 学習の振り返りをする。歯に良い生活を復習する。 | ・○×クイズで使用した良い行動、悪い行動のイラストを再度使用し、歯に良い生活をするよう指導する。(T1) | イラスト |

指導者 T1 中学校養護教諭

T2 小学校養護教諭

1 題材 「歯みがき教室 ～中学校への準備をしよう～」

2 本時の指導

(1) ねらい

- ・むし歯や歯肉炎のしくみを理解し、歯みがきの大切さを考え、進んで歯みがきを行おうとする態度を育てる。
- ・歯垢を落とすための効果的な歯みがきの方法やフロスの使い方を身に付ける。

(2) 展開

| | 時配 | 学習内容と児童の活動 | 教師の支援・指導上の留意点 | 資料 |
|---|-----|--|--|--|
| 導入 | 3分 | 1 ○○小学校の児童のむし歯が多いことを理解する。 2 本時の学習内容を理解する。 | ○コップに水を入れておく。 ○歯科指導をするために神崎中の先生が来てくれたことを伝える。(T2) | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">歯みがき教室 ～中学校への準備をしよう～</div> | | | | |
| 展開1 | 7分 | 3 パワーポイントを見て、歯肉炎について(原因と進み方)理解する。 ・歯垢が原因で歯肉炎が進行する。 ・歯肉炎になると、口臭や口内のねばつきだけでなく、進行すると外見やスポーツ等にも影響してくる。 4 自分の歯肉を観察する。 ・健康な歯肉と歯肉炎の歯肉の状態を知る。 ○歯肉の状態(色や形など)に着目して観察する。 | ○ワークシートを配付する。(T1) ○むし歯の説明を簡単に行う。また、歯垢に着目し、むし歯だけでなく様々な疾患に係していることを伝える。(T2) ○パワーポイントを使って、歯肉炎について説明する。(T1) ○手鏡を使って、歯肉の状態を観察させる。 色・形・ひきしまり・歯みがき時の出血について声をかけながら机間指導を行う。(T1・T2) | ワークシート パワーポイント パワーポイント ワークシート |
| 展開2 | 3分 | 5 むし歯や歯肉炎にならないための歯みがきの重要性と基本的な歯のみがき方を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ・歯ブラシの持ち方 ・歯ブラシの動かし方 </div> | ○むし歯や歯肉炎を予防するためには、歯垢を落とす必要があり、そのための正しい歯みがきの重要性を理解させる。(T2) ○歯ブラシの持ち方や動かし方を実際に見せながら説明する。(T2) | パワーポイント 顎模型 |
| 展開3 | 25分 | 6 自分の口の中の汚れを理解する。 ○実際に染め出しをする。 ○鏡を見て赤くなった部分を確認し、ワークシートの口の絵に赤鉛筆で塗る。 | ○赤くなったところに歯垢がたまっている事(みがき残し)を説明する。(T2) ○説明を加えながら染め出しを行う。(T2) ○上手くできていない児童の支援を行いなが | 染め出しの錠剤 洗濯 |

| | | | |
|----------------------|--|---|--|
| | <p>7 実際に染色した部分を見がき、しっかりとみがけば汚れを落とすことができることを理解する。</p> <p>○基本のみがき方で、全体をみがく。(1分)</p> <p>○実際に歯をみがきながら、考える。(3分)</p> <p>○挙手をして発表をする。(2～3人)</p> <p>○赤く残った部分を手鏡で見ながら、自分にあったみがき方でみがく。(2分)</p> <p>8 フロスの使い方を理解する。</p> <p>○フロスを実際に使って、歯の間の汚れを落とす。</p> | <p>ら、見回って児童がワークシートに塗っている様子を声をかけながら見る。(T1・T2)</p> <p>○赤くなった部分を確認する。(T2)</p> <p>○基本のみがき方で一通りみがかせる。(T2)</p> <p>○基本のみがき方だけでは、みがき残しがあることから、どのようにみがけば、みがき残し無くみがけるのか考えさせる。(T2)</p> <p>○赤くなった部分が落ちるように、みがき残しやみがき方についてアドバイスをを行いながら机間指導を行う。(T1・T2)</p> <p>○児童の意見を板書する。(T1)</p> <p>○児童の意見や工夫に加えてアドバイスをを行う。特に歯ブラシの「つま先」「かかと」を意識して使うように伝える。(T1)</p> <p>○パワーポイントや模型を使用しながら、部分毎に説明を行う。(T1)</p> <p>○みがき残しやみがき方についてアドバイスをを行いながら机間指導を行う。(T1・T2)</p> <p>○歯垢を落とすためには、歯ブラシを細かく使い、自分に合った丁寧な歯みがきを行う必要があることを伝える。(T1)</p> <p>○模型を使ってフロスの使い方を説明する。(T1)</p> <p>○フロスを配付し、実際にフロスを使って歯の間の汚れを落とさせる。(T1・T2)</p> | <p>バサミ 雑巾 パワーポ イント 顎模型</p> <p>模型 フロス</p> |
| <p>ま と め</p> | <p>7分</p> <p>むし歯・歯肉炎を予防するためには、自分にあった正しいみがき方を行うことが大切である。</p> <p>○ワークシートに感想記入をする。</p> | <p>自分にあった正しいみがき方を行うこと</p> <p>○中学生からのメッセージのDVDを見せる。(T1)</p> | <p>ワークシート</p> |

はみがき教室
 ～中学校への準備をしよう～

神埼町教育研究会
 生活改善部 給食・保健班

歯肉炎

歯垢を落とせるのは、
はみがき だけ！！

むし歯のでき方

歯 → ミュータンス菌 → 歯 → 時間がたつと...

口臭 ねばつき 出血

歯肉炎

はみがきの基本

ミュータンス菌 プラーク・歯垢


- プラーク1mg中には、約1億個以上の細菌が存在する
- ヒトの口腔内には、300種におよぶ細菌が棲みついている

健康な歯肉と歯肉炎

チェックしてみよう！


| | 健康な歯肉 | 歯肉炎 |
|-------|----------------------------|-------------------------|
| 色 | うすいピンク | 赤 赤むらさきなど |
| 形 | 歯と歯の間にしっかり入り込んでいる | 穴があつたまもってふくらんでいる |
| 引きしまり | 引きしまってほんりよくがらみ、歯にぴったりついている | フヨフヨしてだんりよくない |
| 出血 | 強く押しやり、痛みがやむくらいでは、出血しない | 軽く押しやり、歯をみがいたときに、出血しやすい |

歯ブラシの持ち方

基本のみがき方 

えんぴつ もちで
コチョコチョ みがき


10

基本のみがき方で **1分間**
みがいてみよう 

えんぴつ もちで
コチョコチョ みがき

11

歯間ブラシ (フロス)
を使ってみよう!




16

染め出しをしてみよう

- ① 赤く染める。⇒ おく歯でかんで、舌でぬりひろげる
- ② うがいを1回する。
- ③ 赤くなったところを観察し、プリントにスケッチする。

11


赤く染まったところ=みがき残しの多いところ
(歯垢・プラーク)



歯と歯の間
歯と歯肉のさかい目
かみ合わせのところ

14

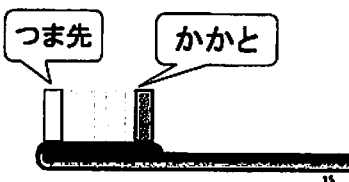
赤く染まったところ=みがき残しの多いところ
(歯垢・プラーク)



歯と歯の間
歯と歯肉のさかい目
かみ合わせのところ

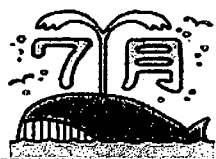
12

歯ブラシ



つま先
かかと

13



1週間はみがきチェックカード

ねん くみ () なまえ

暑い日が続いていますね。炭酸飲料やアイスなどをついつい食べすぎていませんか？
炭酸飲料やアイスには、砂糖がたくさん使われています。食べすぎは、肥満やむし歯の原因になりますので、注意しましょう。そして、食べたらいや歯みがきを忘れずにしましょう。



このカードの書き方

- 1 家にもって帰って毎日チェックをしましょう。
- 2 しっかりできたものは○をつけましょう。
- 3 1週間のうちに1回、家にあるはぶらしの毛の先をチェックする、はぶらしチェックをしましょう。チェックをしたら「判定」のところに記入しましょう。

はみがきがしっかりできたら、○をつけましょう。

しっかりみがいて

よくかんで

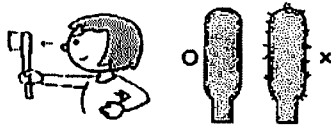
むし歯を予防しよう

| | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | ○のかず |
|----------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|------|
| あさのはみがき | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ひるのはみがき | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| よるのはみがき | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ごはんをよくかんで食べた | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| あまいものをたべたりのんだりしたあととは口をすすいだ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

月に1度はぶらしチェックコーナー
じぶんの家でつかっているはぶらしの毛をチェックしよう！
歯のようにはぶらしの毛の股対側から見て、
ヘッド(毛がないほう)から毛先がはみ出していたらこうかんじです。
○…ほとんど毛先はひらいていない
△…すこしひらいてしまっているが、まだだいじょうぶ。
×…ひらいてしまっている。

判定は？

×の人は、すぐにこうかんしましょう。○、△の人は、これからもふだんからチェックしましょう。



砂糖がこんなに入っています！！ (500mlあたりの目安)



スポーツドリンク
スティックシュガー (3本) : 約8本



炭酸飲料
スティックシュガー : 約19本

お茶や水 : 0本

かんがえて飲みましょうね！

1週間の感想

先生から

ははは通信

～キレイな歯でステキな笑顔～

ご入学、ご進級おめでとうございます。

神崎町では、町内の小中学校、保育所が連携して、町の子どもたちの歯と口の健康づくりに積極的に取り組んでいます。子どもたちのむし歯の無い健康な歯と口腔環境を目指し、保護者の皆様と一緒に取り組んでいければと思っています。

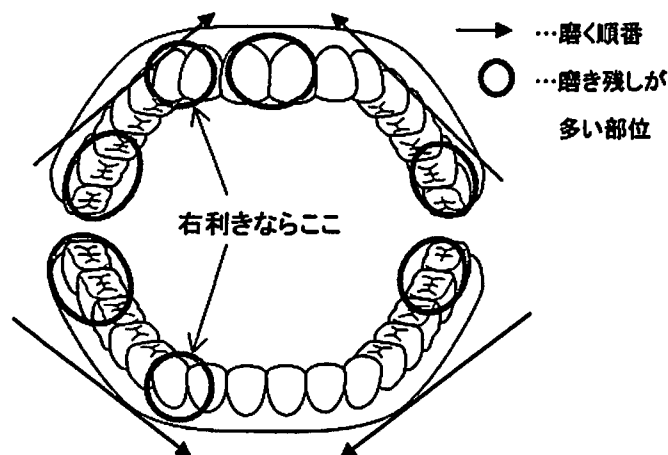
この「ははは通信」は、主に保護者の皆様へ歯や口の健康について様々な情報を発信していきたいと思います。ぜひ、ご家族の皆様でお読み下さい。

仕上げ磨きのポイント

磨く順番を決めておきましょう。

「奥から手前へ」が基本です。右上→左上→右下→左下のように順番を決めると、磨き残しが少なくなります。

奥歯4か所と上の前歯は虫歯になりやすい部位です。また、お子さんの利き手側の犬歯（八重歯）も磨き残しが多い部位です。そこを重点的に磨いてあげてください。



やさしく、ちょこちょこ磨きで磨いてあげてください。

やさしく小刻みに

大人の歯みがきもそうですが、強く磨く必要はありません。歯ブラシを歯に当て、ちょこちょこやさしく磨いてあげてください。歯ブラシを動かすのは、1か所につき20回くらいが目安です。強い力で磨くと子どもが嫌がるだけでなく、歯ぐきを傷つけてしまいます。

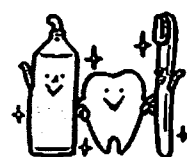
上の前歯を磨くときは、上くちびると上の歯ぐきをつないでいる筋に歯ブラシが当たらないようにしましょう。

何歳くらいまでやったら良い？

小学生になるとなんでも自分でできそうですが、実際には小学校低学年から中学年頃までは自分一人できれいに磨くことはできません。そのため自分一人で磨かせたあとに、保護者が歯垢や食べかすが取れているかを確認しながら、仕上げ磨きをしてあげる必要があります。小学校中学年から、場合によっては高学年頃まで、おうちの方が気にかけて仕上げ磨きをしてあげてください。

中学生では仕上げ磨きはしませんが、歯みがきしているかどうか、気にかけて声をかけてあげてください。中学生の子育ては「手は離しても、目は離さない」です。

キレイな歯で
ステキな笑顔!!



平成29年〇月〇日

保護者様

神崎町立〇〇学校長 〇〇 〇〇

歯科健康診断結果のお知らせ

本年度の歯科健康診断の結果は、下記のとおりでした。

専門医への受診は□の欄に○がついている人が対象となります。歯科医を受診し、適切な相談、検査、指導を受けられますようお勧めします。また、「ご家庭でご注意いただきたいこと」にも御留意ください。

なお、受診の結果を下記「受診結果報告書」へ御記入の上、学校へ提出してください。

| 項目 | 診断・内容 | ご家庭でご注意いただきたいこと |
|-------------------|--|---|
| むし歯 | むし歯はありません。 | 歯みがきを丁寧に続けて、一生大切に使いましょう。 |
| | むし歯があります。 | できるだけ早く歯科医の診察をお勧めします。 |
| 要観察歯 (要観察・要精検) | むし歯の疑いがあります。歯のくぼみや溝に着色があったり、歯の面に白濁や褐色斑が認められます。 | できるだけ早く歯科医の診察をお勧めします。また定期的に歯科医の診察を受け、歯みがきを丁寧にしましょう。 |
| 要注意乳歯 | 放置しておくと、永久歯の歯並びを悪くします。 | できるだけ早く歯科医の診察をお勧めします。 |
| 歯列・咬合 (歯並び) | 0 特に異常は認められません。 | |
| | 1 軽度の異常が認められますので、定期的な観察が必要です。 | 歯科医との相談をお勧めします。 |
| | 2 異常が認められます。 | 歯科医とご相談の上、診察をお勧めします。 |
| 顎関節 (あごの関節) | 0 特に異常は認められません。 | |
| | 1 軽度の異常が認められますので、定期的な観察が必要です。 | 痛みがあったり、口が開きづらくなったりしたら、歯科医とご相談ください。 |
| | 2 異常が認められます。 | 歯科医とご相談の上、診察をお勧めします。 |
| 歯垢 | 0 汚れはほとんどなく、きれいです。 | 歯みがきを丁寧に続けましょう。 |
| | 1 歯の汚れがあります。 | 日常の歯みがきに十分時間をかけ丁寧にみがきましょう。 |
| | 2 歯垢がついてかなり汚れています。 | 歯科医の診察を受け、歯みがき指導を受けることをお勧めします。 |
| 歯石 | 歯石がついています。 | 家庭では取れませんので歯科医のもとで取ってもらいましょう。 |
| 歯肉 | 0 歯肉は健康です。 | 歯みがきを丁寧に続けましょう。 |
| | 1 軽度の歯肉炎が認められます。(GO) | 定期的に歯科医の診察を受け、日常の歯みがきに十分時間をかけ丁寧にみがきましょう。 |
| | 2 炎症が進んでいます。(G) | できるだけ早く歯科医の診察をお勧めします。 |
| その他 | | 歯科医にご相談ください。 |

※学校の集団健診の結果は、歯科医院で行う精密な検査と多少異なる場合があります。その場合は主治医の指示に従ってください。

きりとり線

受診結果報告書(歯科)

1. 受診した医療機関名 ()

2. 受診結果 *該当するところに○をつけてください。

① むし歯、要観察歯(要観察・要精検)について

ア 治療終了 イ 治療の必要なし ウ その他 ()

② その他(要注意乳歯・歯列咬合 等)について

ア 治療終了 イ 経過観察 ウ その他 ()

平成 年 月 日

年 組 氏名

保護者氏名

印